

観光ポスターに見る中部の地質

齋藤 眞¹⁾

地質情報展を開催するごとに各地の観光ポスターで地質学的事象を扱ったものを探し、解説を付けて紹介してきました。観光ポスターには、自然の風景や温泉などを扱ったものが多く、それらは直接または間接的に地質を反映している場合が多いからです。また、一般の方にも、よく知られた観光スポットを対象にした地質の話は理解しやすく、話題にしやすいと思われます。

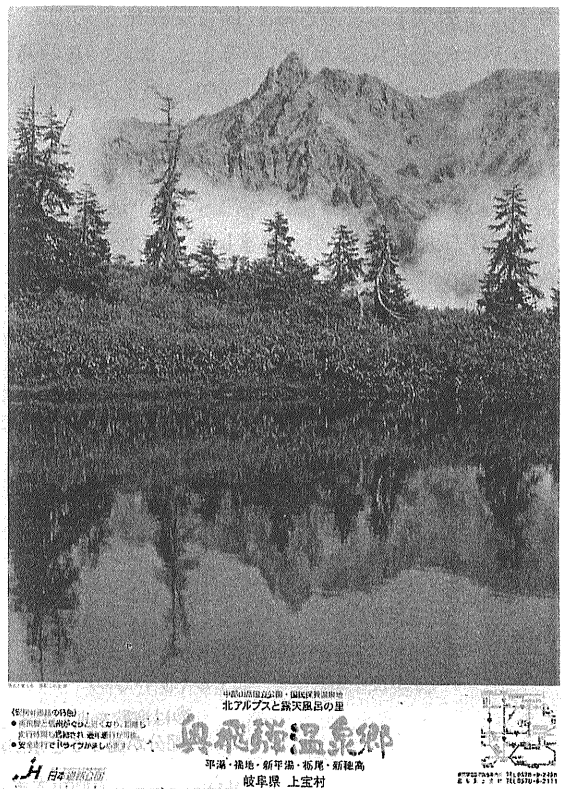
中部地質情報展でも、関係する地方自治体から観光ポスターを送っていただき、それに解説をつけて展示しました。実際、会場では「あー、ここ行っ

たことがある!」とか「ここ知ってる!」という声をしばしば耳にしました。

ここでは、中部地質情報展で紹介した観光ポスターのうち幾つかを選んで地質の簡単な紹介をし



第1図 各ポスターの位置図(基図は100万分の1日本地質図第3版)。



ポスター1

槍ヶ岳を西側から見たところです。槍ヶ岳の左側は穂高安山岩類(第三紀鮮新世~第四紀更新世)、右側の肩の部分は古生代(?)の結晶片岩でできています。穂高岳安山岩類はこの南側(右側)の穂高岳西斜面に広く分布する第四紀更新世の滝谷花崗岩(世界で最も新しい花崗岩)に貫かれています。槍ヶ岳の右側の飛騨沢は氷河が作ったカールと呼ばれる馬蹄形の地形をなしています。

(岐阜県上宝村制作)

1) 地質調査所 産学官連携推進センター

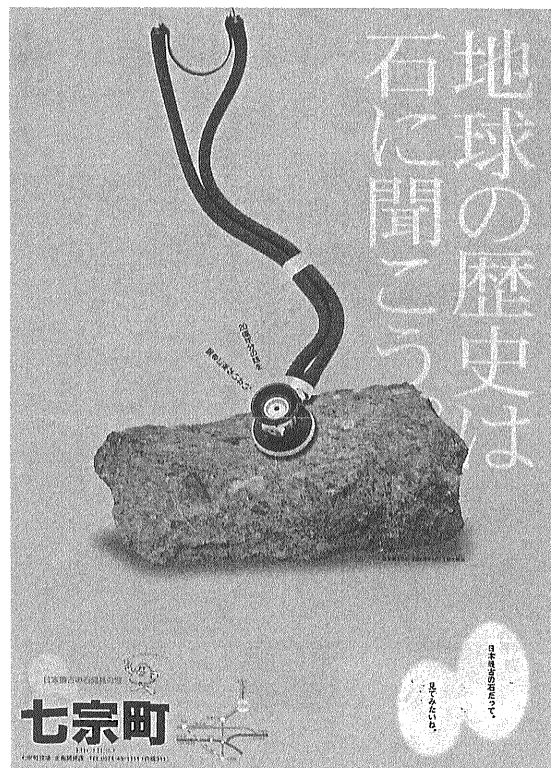
キーワード: 観光, ポスター, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 地質



ポスター2

奥飛騨温泉郷付近は、熱いお湯が沸き出す温泉で、その熱源は焼岳火山の下にあるマグマだまりが考えられます。北アルプス付近には、地震波のデータなどから地下に高温のマグマがあると考えられていて、それが熱源と考えられる高温の温泉がたくさんあります。

(岐阜県観光キャンペーン推進協議会制作)



ポスター3

岐阜県七宗町の飛騨川の川岸にある上麻生礫岩は1億7,000万年ほど前に海の中で堆積し、その後海洋プレートの沈み込みにより付加しました。そのため上麻生礫岩自体の年齢は1億7,000万歳です。しかし、礫岩中には約20億年前にできた岩石(片麻岩)が礫となって含まれています。この礫はもともと大陸の一部で、それが1億7,000万年ほど前に削り取られ、川で運ばれ、最終的に海溝付近まで運ばれて、他の礫とともに堆積して礫岩になったと考えられています。この礫こそが日本最古の石です。この上麻生礫岩は地質標本館や日本最古の石博物館(七宗町)に展示されています(2月号に解説があります)。

(岐阜県七宗町制作)

ます。このうち、特に直接的に地質のことを用いているのは、奥飛騨温泉郷(ポスター2)、七宗町(ポスター3)、鳥羽市(ポスター8)です。特に奥飛騨温泉郷の「地球からのダイレクトメッセージ」とくぐりには、奥飛騨温泉郷の熱源を考えれば、なかなか感心させられます。

今後も観光ポスターについては適宜紹介できたらと思っておりますので、地質に関係した観光ポスターをお持ちの方は、ぜひご紹介ください。

謝辞：この展示には、各ポスターに記載した制作機関の他に、愛知県商工部観光交流課、岐阜県東京観光情報センター、三重県農林水産商工部新産業創造課、菰野町観光協会、磯部町役場の協力を得ました。各ポスターの制作機関からは転載の承諾をいただきました。ここに記して感謝します。

SARTO Makoto (2000) : Geology of sight-seeing posters in central Japan.

<受付：2000年1月7日>



ポスター4 (左)

湯谷温泉は食塩分がたくさんけ込んでいる温泉です。この付近の地層は2,000万年～1,200万年前ころ(第三紀中新世)の海でたまった地層とそれを覆う設楽火山の噴出物でできています。湯谷温泉の食塩分は海でたまった地層に残された大昔の海水のなごりかもしれません。

(愛知県鳳来町観光協会制作)



ポスター5 (上)

阿寺の七滝は、阿寺七滝礫岩層と呼ばれる地層でできています。化石が出ないため時代は不明ですが、白亜紀後期のものという推測もあります。この礫岩やその仲間は、日本の中央を走る大断層(中央構造線)に沿って点々として出てきます。これらの地層は断層ができるのとの関係があるのかもしれません。

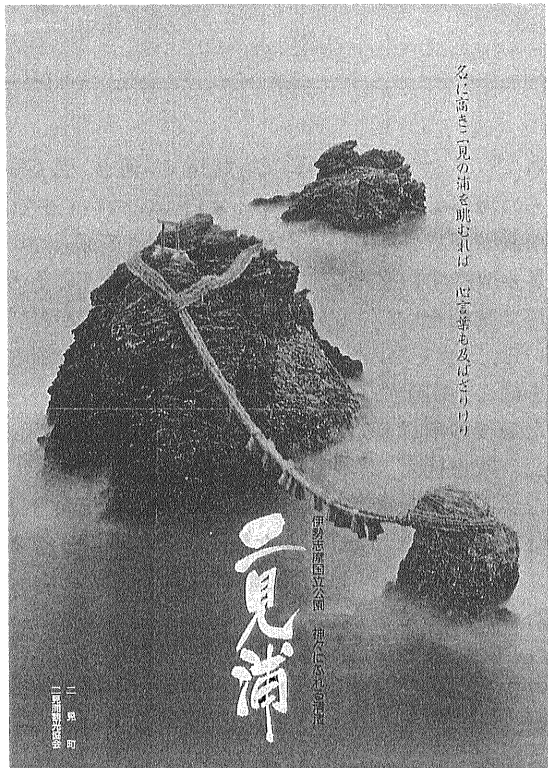
(愛知県鳳来町観光協会制作)



ポスター6 (左)

御在所岳は8,000万年ほど前に地下でマグマが冷えて固まってきた花崗岩でできています。鈴鹿花崗岩(鈴鹿新期花崗岩)と呼ばれています。小さな割れ目から風雪(雨)、温度変化で風化し、様々な形をした岩ができます。これは花崗岩地帯特有の風景です。

(御在所ロープウェイ株式会社制作)



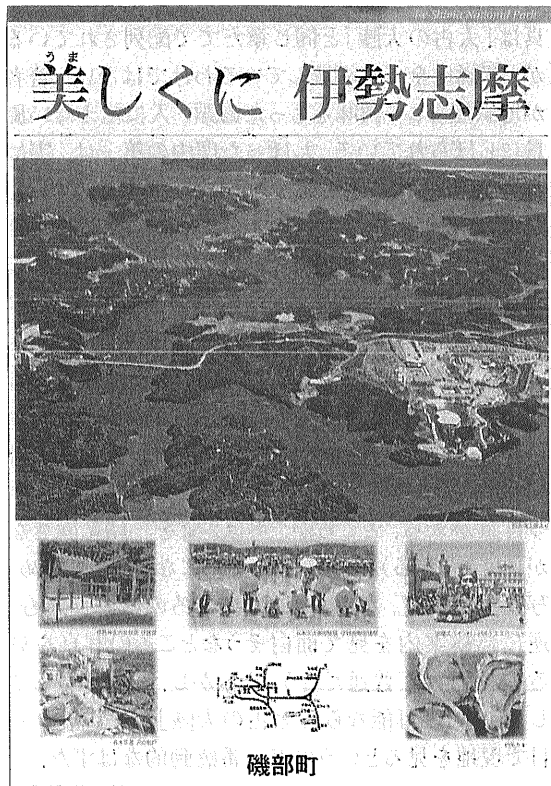
ポスター7(左)

二見浦の夫婦岩は、約7,000万年ほど前に地下深くで高い圧力が加わってできた結晶片岩でできています。大分県から関東山地まで続く三波川結晶片岩の一部です。変成鉱物がきらきらしていて、薄い板状に割れます。
(三重県二見町制作)



ポスター8(上)

鳥羽では恐竜の化石が発見されています。恐竜化石を含む地層は松尾層群と呼ばれ、白亜紀前期の1億3,000万年前～1億2,000万年前頃に浅い海でたまったものです。この松尾層群と同じような地層は四国、九州に転々とあります。
(三重県鳥羽市制作)



ポスター9(左)

伊勢志摩の入りくんだ地形は、リアス式海岸と呼ばれます。谷を深く刻んだ複雑な地形が海に沈んでできたものです。この付近は白亜紀に海洋プレートの沈み込みによってできた複雑な地層(付加体)でできています。
(伊勢志摩国立公園協会制作)